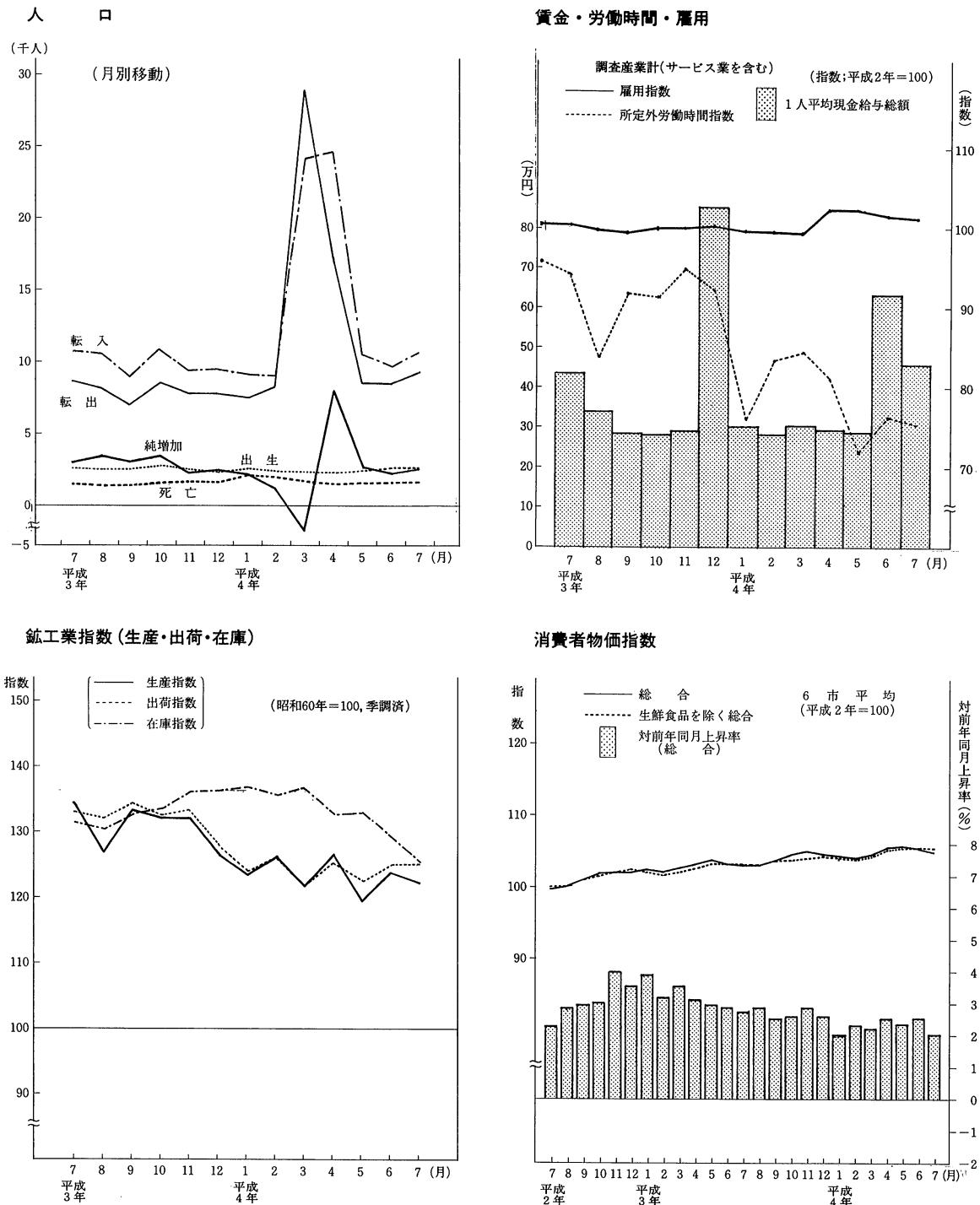


●今月の主な動き

今月の主な動き



● 今月の主な動き ●

主な動きのあらまし 企画部統計課

■ 人口(8月1日)

本県の人口は、7月中に2,494人増加し、8月1日現在で2,900,202人(男1,448,435人、女1,451,767人)となった。

内訳は、自然動態で966人(出生2,539人、死亡1,573人)増加し、社会動態で1,528人(転入10,734人、転出9,206人)増加した。前年同月と比べると29,437人(1.03%)の増加で

ある。

市町村別では、増加が18市51町村、減少が2市12町村、増減なしが4町村である。

世帯数についても7月中に1,427世帯増加し874,492世帯となった。

■ 賃金・労働時間・雇用(7月)

1. 平均賃金の推移

7月の現金給与総額は、調査産業計で462,579円、対前年同月比7.3%増、このうち、きまって支給する給与は289,371円、対前年同月比2.7%増であった。また、このうち、所定内給与は263,183円、対前年同月比4.8%増であり、超過労働給与は26,188円、対前年同月比14.6%減であった。

なお、物価上昇分を差し引いた実質賃金は、対前年同月比5.7%増であった。

* この地方調査の結果は事業所規模30人以上です。なお、事業所規模5人以上の結果についての問合せにも応じます。

■ 鉱工業指数<生産・出荷・在庫>(7月分)

本県における平成4年7月の“鉱工業指数”(昭和60年=100)は、季節調整済指数で、生産が122.3、出荷が125.6、在庫が125.8で、前月比は、生産が△1.8%の低下、出荷がもちあい、在庫が△2.8%の低下であった。

前年同月比(原指数)は、生産が△9.0%の低下、出荷が△5.6%の低下、在庫が△4.1%の低下であった。

業種別に前月比をみると、生産では、石油・石炭製品工業、繊維工業、鉱業等が上昇し、化学工業、輸送機械工業、鉄鋼業等が低下した。出荷では、非鉄金属工業、一般機械

2. 労働時間

7月の総実労働時間は、調査産業計で174.1時間、対前年同月比2.0%減であった。このうち、所定内労働時間は159.5時間、対前年同月比0.2%増、所定外労働時間は、14.6時間、対前年同月比20.1%減であった。

3. 雇用の動き

7月の雇用の動きを常用雇用指標によってみると、対前年同月比1.0%増であった。

工業、石油・石炭製品工業等が上昇し、化学工業、輸送機械工業、精密機械工業等が低下した。在庫では、鉱業、石油・石炭製品工業、繊維工業等が上昇し、輸送機械工業、精密機械工業、電気機械工業等が低下した。

特殊分類別にみると、生産では、その他用生産財、耐久消費財等が上昇し、非耐久消費財、鉱工業用生産財が低下した。出荷では、耐久消費財、その他用生産財等が上昇し、非耐久消費財、鉱工業用生産財が低下した。在庫では建設財が上昇し、耐久消費財、鉱工業用生産財等が低下した。

■ 消費者物価指数(7月)

平成4年7月の茨城県消費者物価指数(6市平均)は、総合で104.7(平成2年=100)となり、前月比0.7%の下落、前年同月比2.0%の上昇となった。

今月の上がった主な項目……設備修繕・維持1.7%

今月の下がった主な項目……果物12.8%，シャツ・下着4.8%，衣料4.2%，野菜・海草3.2%，通信3.1%，魚介類2.9%

生鮮食品を除く総合は105.3となり、前月比は0.3%の下落、前年同月比は2.4%の上昇となった。

費目別指標

(平成2年=100)

区分	指數	上昇率(%)		区分	指數	上昇率(%)	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総合	104.9	0.2	1.9	保健医療	102.3	0.0	2.5
食料	105.7	1.1	1.2	交通通信	99.6	0.2	△1.0
住居	110.2	△0.1	6.0	教育	105.8	0.0	3.1
光熱・水道	102.9	0.1	0.6	教養娯楽	108.2	1.1	3.5
家具・家事用品	100.8	0.0	△0.5	諸雑費	103.5	△0.1	2.3
被服及び履物	101.9	△3.0	1.5	生鮮食品を除く総合	105.2	△0.1	2.3